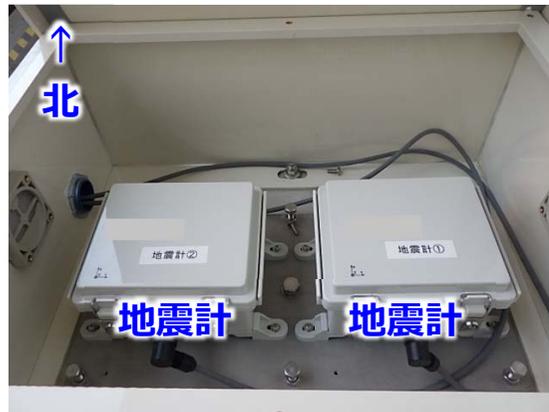
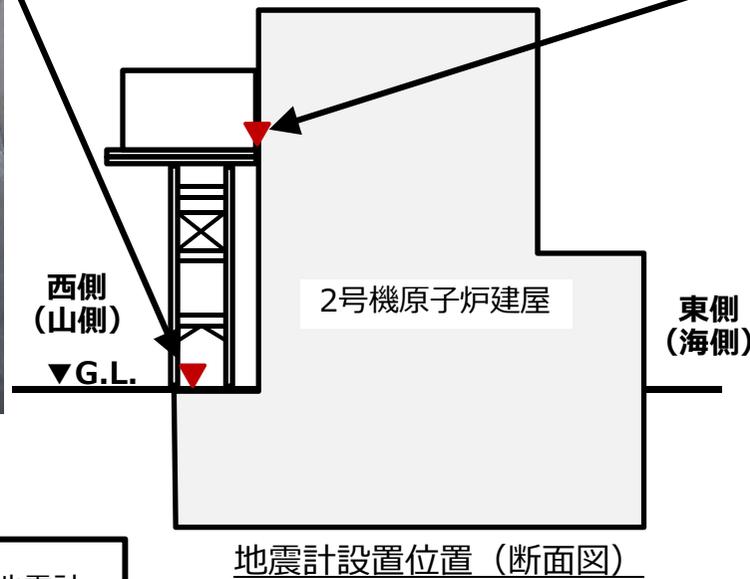
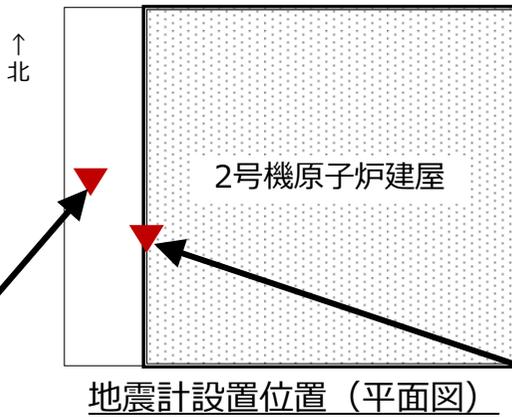


- 1～3号機原子炉建屋については、デブリ取り出し完了までの長期にわたって必要性能を有していることを確認していくため、建屋健全性評価の取り組みを行っております。
- 3号機原子炉建屋については、上記取り組みの一環として、1階および5階オペレーティングフロアに地震計を設置し、建屋全体の経年変化の傾向把握等を目的とした観測を継続的に実施しておりますが、その水平展開として、これまで、1号機および2号機原子炉建屋への地震計設置の拡大を検討してまいりました。
- 2号機原子炉建屋については、2022年3月29日に、1階と同レベルの屋外床面および5階オペレーティングフロアと同レベルの外壁に地震計（各2台）設置しました。なお、大雨による水没対策としてかさ上げした基礎上に設置するとともに、故障に備えて多重化および予備品確保の対策を講じております。
- その後、通信状況確認や動作試験等を行い、このたび、準備が整ったことから、明日（3月31日）から建屋全体の経年変化の傾向把握等を目的とした観測を開始します。
- 今後、観測記録を収集・分析し、建屋全体の経年変化の傾向把握の検討するとともに、1号機への設置に向けて引き続き検討を進めてまいります。

【参考】地震計設置位置



① 1階レベル
(西側構台下)



② 5階レベル
(西側外壁面)